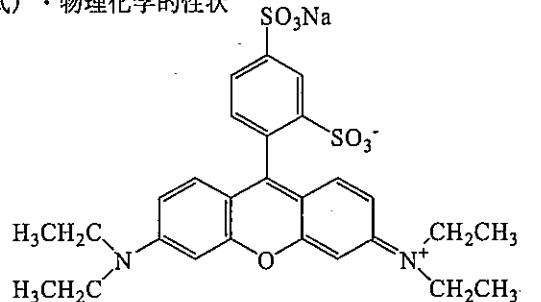


整理番号 K-1830 (5-1504)		分解度試験		分解度試験		分解度試験	
ナトリウム=4-[6-(N,N-ジエチルアミノ)-3-(N,N-ジエチルアザニウミリデン)-3H-キサンテン-9-イル]ベンゼン-1,3-ジスルホナート (3520-42-1)		事業対象年度 平成19年度		契約 年 月 日		契約 年 月 日	
構造式(示性式)・物理化学的性状		試験期間 19. 9. 12~19. 12. 14		試験期間 . . . ~ . . .		試験期間 . . . ~ . . .	
 <p>分子式 C<sub>27</sub>H<sub>29</sub>N<sub>2</sub>NaO<sub>7</sub>S<sub>2</sub> 分子量 580.65</p>		試験装置 (標) ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮		試験装置 標 ・ 揮	
		試験濃度		試験濃度		試験濃度	
		被験物質 100 mg/L		被験物質 mg/L		被験物質 mg/L	
		汚泥 30 mg/L		汚泥 mg/L		汚泥 mg/L	
本試験期間 4 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間		本試験期間 週間	
純度*1 84.7% 不純物*1 (物質名, 含有率) 水分 [乾燥減量 (110℃)] 2.0% 無機塩 [強熱残分 (硫酸塩)] 13.3%		試験結果 間接		試験結果 間接		試験結果 間接	
		BOD 8, 5, 5 (6) %					
		TOC 0, 1, 0 (0) %					
外観 黒褐色粉末 溶解度 (対水, その他) 対水 100 g/L 以上 (20℃) 対アセトニトリル 1 g/L 未満		試験結果 直接		試験結果 直接		試験結果 直接	
		HPLC -3, -2, -2 (0) %					
融点 350℃以上 (室温~350℃) において固体		審査部会 第 81 回		審査部会 第 回		審査部会 第 回	
沸点 350℃以上 (室温~350℃) において固体		20年12月19日開催		年 月 日開催		年 月 日開催	
蒸気圧 1.39×10 <sup>-5</sup> Pa 以下 (80℃)		判定		判定		判定	
密度		備考		備考		備考	
LD50		1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。  2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構  3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。					
IRチャートの有無 (有) ・ 無							
用途 色素 (染料、顔料、インク)							
生産量 ( ) 製造及び輸入 -							
試料 購入先 和光純薬工業							
経済産業公報発表年月日 年 月 日							

\*1 和光純薬工業添付資料による。

\*2 Kowwin vl. 67 SRC-LOGKOW for Microsoft Windows による計算値。

Study No. 205155	( Test item K-1830 )
Cultivating conditions:	
Concentration	
Test item .....	100 (mg/L)
Reference item (aniline) .....	100 (mg/L)
Activated sludge .....	30 (mg/L)
Temperature .....	25 ± 1 °C
Duration .....	28 days (Sep.13,2007 - Oct.11,2007)
Note: —	

Vessel No.	Sample Description	BOD (mg)			
		7th day	14th day	21st day	28th day
[1]	Water + test item	0.9	0.9	1.3	1.7
[2]	Sludge + test item	4.9	7.6	9.3	10.7
[3]	Sludge + test item	3.8	6.1	7.5	8.9
[4]	Sludge + test item	4.1	6.3	7.2	8.9
[5]	Sludge + aniline	41.0	66.5	71.3	73.9
[6]	Control blank [B]	2.7	4.2	5.7	6.2

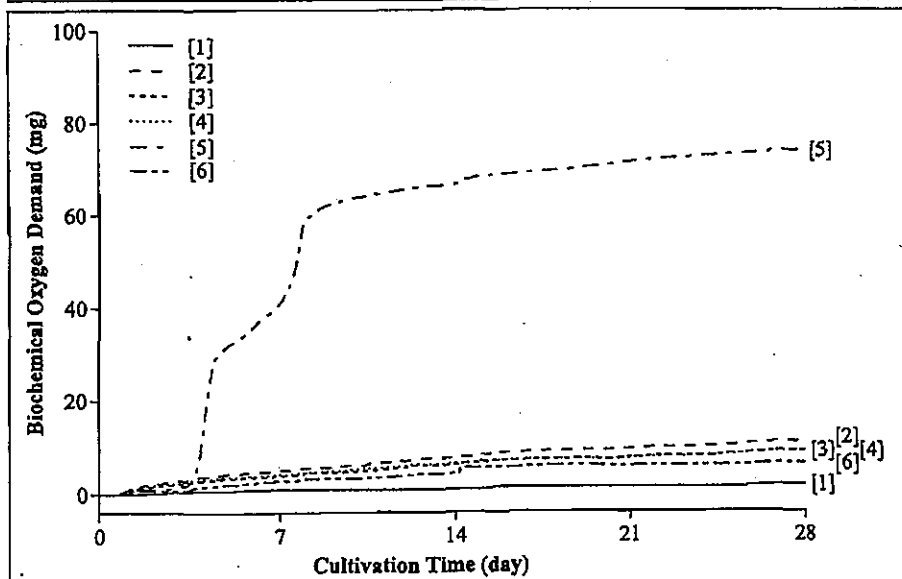


Fig. 1 Chart of BOD.

Oct.11,2007 Name \_\_\_\_\_

### 試験液の分析結果

28日後の分析結果は下記のとおりであった。

なお、(水+被験物質)系、(汚泥+被験物質)系共に被験物質はほぼ理論量残留し、HPLCクロマトグラム上に被験物質以外のピークは認められなかった

		(水+被験物質)系				理論量
		[1]	[2]	[3]	[4]	
BOD*1	mg	1.7	4.5	2.7	2.7	58.9
DOC 残留量 及び残留率 *1	mgC	18.2	18.3	18.0	18.1	18.7*2
	%	97	98	97	97	-
被験物質残留 量及び残留率 (HPLC)	mg	29.9	30.7	30.6	30.5	30.5
	%	98	101	100	100	-

\*1 (汚泥+被験物質)系は、汚泥ブランク系の値を差し引いて表示した。

\*2 102 mg/Lの被験物質標準溶液を3点調製し、それらのDOC実測濃度の平均値から試験液中の理論量を算出した。

### 分解度

28日後の分解度は下記のとおりであった。

		(汚泥+被験物質)系			
		[2]	[3]	[4]	平均
BOD 分解度	%	8	5	5	6
DOC 分解度	%	0	1	0	0
被験物質分解度 (HPLC)	%	-3	-2	-2	0(-2)*3

\*3 分解度の平均値が負の値に算出されたため、平均値を0としカッコ内にその計算値を示した。

### 結 論

本試験条件下において、被験物質は微生物により分解されなかった。

K-1830の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
ナトリウム=4-[6-( <i>N,N</i> -ジエチルアミノ)-3-( <i>N,N</i> -ジエチルアザニウミリデン)-3 <i>H</i> -キサンテン-9-イル]ベンゼン-1,3-ジスルホナート (3520-42-1)		5-1504 (K-1830)	標準(4 W) 2007年実施 BOD 8, 5, 5 (6) TOC 0, 1, 0 (0) HPLC -3, -2, -2 (0) *1		-			
2-(3-ジエチルイミノオ-6-ジエチルアミノ-3 <i>H</i> -キサンテン-9-イル)安息香酸=クロリド (3375-25-5)		5-1973 5-4056 (K-847)	標準(4 W) 1987年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 3, 2, 0 (2) VIS(555 nm) 8, 8, 5 (7)	難分解性 (1987)	1987年実施 1.9~2.0	33.9 (48 hr)	1987年実施 1区(100 µg/L) : <0.2 2区(10 µg/L) : <1.7 脂質含有率 3.9%	高濃縮性 ではない (1987)
ジナトリウム=2-(6-オキシド-3-オキソ-3 <i>H</i> -キサンテン-9-イル)-ベンゾアート (518-47-8)		5-1416 (K-1825)	標準(4 W) 2008年実施 BOD -2, 0, 1 (0) *1 TOC 0, 1, 1 (1) HPLC -1, 1, 1 (1)	難分解性 (2008)	-	>200 (96 hr)	2008年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(0.46 mg/L) : ≤0.27 2区(0.046 mg/L) : ≤2.7 脂質含有率 開始前 2.94% 終了後 4.14%	高濃縮性 ではない (2008)

\*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。